



入館者 40 万人セレモニー

まほろんでは、平成26年2月8日（土）に、開館以来の入館者数が40万人に達し、記念セレモニーを行いました。東日本大震災の影響で減少していた入館者の数は徐々に増加して、この度、40万人を達成いたしました。今までの皆様からのご支援に対し、深く感謝申し上げます。

40万人目の入館者は、白河市の吉田悠里ちゃん。当日、雪が降り続く悪天候の中、お母様と妹さんと一緒に3人で来館してくださいました。記念セレモニーでは、菊池館長と一緒にくす玉を割り、職員と一緒に40万人を祝いました。悠里ちゃんには、40万人目の認定証と記念品の勾玉クッキー、白河だるま、菊池館長の著書「はじめての考古学」をお渡ししました。

記念品としてお渡しした本は、菊池館長が、子ども達やはじめて考古学にふれる方に向けて書いたものです。この本の中で、菊池館長は、「今を生きる君は、時間の流れの中で、未来の人類とも過去の人たちともつながっています。ですから、自分たちの今と未来を考えるには、どうしても過去の人々とその文化をよく知らなければならないのです。」と書いています。

まほろんでは、文字の無かった時代や記録に残っていない人々の暮らしを明らかにしようと、福島県内で発掘された遺跡を復元展示するとともに、出土品の保管と公開を行っています。皆さんも、歴史の真実に迫ってみませんか。ぜひ、まほろんに来館され、見て、触れて、体験してみてください。

体験学習

実技講座「縄文土器づくり上級編」

本講座は、形が難しく文様や装飾が複雑な縄文土器をモデルとして2回にわたり実施しました。

その内容は1回目が形づくり、2回目は文様付けです。土器は、底から紐状にした粘土を積み上げてつくりますが、高さが増してゆくと外側に傾いていきます。受講者の方々は、苦勞しながら見本の形に近づけてゆき土器を完成させました。

なお、3回目の野焼きは雪害により中止となり、電気窯による土器の焼成となりました。



〈本物そっくりに縄文土器をつくる様子〉

実技講座「ガラスと組紐でアクセサリーをつくろう」

2月22日（土）に開催し、8名の方が受講されました。日本におけるガラス・組紐の登場は古く、ガラスは弥生時代前期末（国内生産は、奈良県飛鳥池遺跡などの調査から7世紀代）、組紐は奈良時代には普及していたとされています。



〈アクセサリーづくり 石膏製の鋳型でガラス玉をつくる様子〉

は、石膏製の鋳型に勾玉をデザインすることから始めます。そこに砕いた色ガラスを入れ、七輪と炭でガラスが溶け始める約900℃まで温度を上昇させ、約20分熱して出来上がりです。組紐は使う糸の本数などによって様々な組み方がありますが、今回は4本の糸を使って組む方法で作りました。

完成品には、作り方・材料が同じであっても、作り手の違いで個性が表れます。受講者の方々は工業製品には無い、ハンドメイドの魅力を感じていました。

企画展示案内

ふくしま復興展

「発掘された大堀相馬焼」

会期：平成26年4月26日（土）～6月29日（日）

会場：まほろん特別展示室（入場無料）

東日本大震災と福島第一原子力発電所事故から3年が経ちましたが、福島県はいまだ復興の途上にあります。本県各地域には日常生活に根付いた個性豊かな文化があり、その保存と継承が今後の重要な課題となっていくことでしょう。

そこで、当館では、かけがえのない古里の文化を広く県民に紹介するとともに、福島県の復興を促進するために全国へ情報発信する試みとして、収蔵資料を活用した「ふくしま復興展」を開催することとしました。第一回目の今回は、福島県の代表的な伝統工芸品である大堀相馬焼を取り上げます。

大堀相馬焼の歴史は古く、江戸時代の元禄年間



〈浪江町中平遺跡からの出土品〉

（1690年頃）に、相馬藩領大堀村の左馬^{さま}という人物が陶器づくりを学び、主人である半谷^{はんが}休閑^{いさゆうかん}に伝えたのが始まりとされています。休閑は、これを人々の生活の手段として役立てようと、村人たちに伝授していきました。

こうして始まった大堀村の窯業は、その後、相馬藩の注目するところとなり、藩の保護下で成長を遂げていきます。その結果、日用雑器を中心とする大堀相馬焼は東北地方を中心に広く流通し、益子焼（栃木県）や笠間焼（茨城県）、成島焼（山形県）などにも影響を与えたといわれています。

しかし、明治時代になると藩の庇護は失われ、江戸時代末期には100軒を超えたという窯元は激減し、大堀相馬焼は存亡の危機に瀕します。しかし、残った人々は様々な創意工夫を重ね、その危機を乗り越え、現在は伝統工芸品として国の指定を受けるまでになりました。

今回の展示では、主に江戸時代から明治・大正時代の大堀相馬焼の製品や技術について、生産地である浪江町での福島県教育委員会による発掘調査の成果を基に紹介をします。現在、大堀相馬焼というと、青ひびと駒絵、二重焼きという印象が強いと思いますが、そこに至るまでには、様々な試行錯誤が行われていたことに驚かれることでしょう。ご観覧をお待ちしております。

平成 26 年度館長講演会のご案内

今年度の館長講演会は、『はじめての考古学Ⅰ～考古学者は遺跡を読む～』と題して開催いたします。具体的には、考古学や遺跡とは何か、発掘調査はどのようにして行うのか、遺跡の出土品等がどんな作業を経てまほろんにたどり着くのか、といった内容について分かりやすく解説します。

講演会は、5月から平成27年1月まで計5回を予定しています。定員は60名（参加料無料）で、先着順となっておりますので、お早めにお申し込みください。

遺跡から発掘された資料が、どんな作業を経て歴史を復元していくのか、学んでみませんか？



平成 25 年度の入館者数

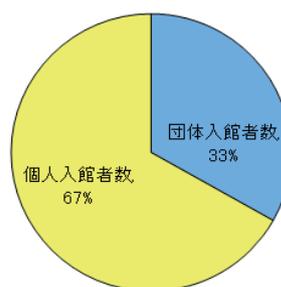
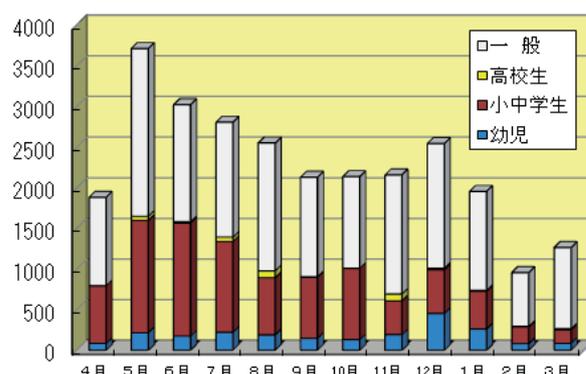
平成25年度は、県内外から2万7千人余りの方々にご来館いただきました。平成13年7月の開館以来、これまでに40万2千人以上の方々にはまほろんを楽しんでいただきました。

国立科学博物館と共催で開催した「まほろんに恐竜がやってきた!!」には大勢の方にお越しいただき、12月と1月は過去最高の入館者数となりました。

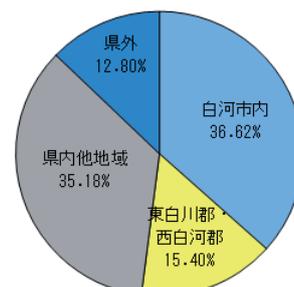
月	幼児	小中学生	高校生	一般	入館者合計
4月	85	708	4	1,086	1,883
5月	216	1,384	50	2,064	3,714
6月	174	1,393	17	1,440	3,024
7月	222	1,119	53	1,413	2,807
8月	190	703	84	1,574	2,551
9月	147	750	9	1,224	2,130
10月	131	876	4	1,126	2,137
11月	193	416	84	1,466	2,159
12月	454	537	19	1,535	2,545
1月	263	464	10	1,218	1,955
2月	81	207	8	661	957
3月	86	166	13	1,000	1,265
合計	2,242人	8,723人	355人	15,807人	27,127人

今年度も、多くの方々に楽しんでいただくため、多彩なイベントを実施予定です。是非、ご来館ください。

月別入館者数



団体利用比率



地域別構成比

まほろんからのお知らせ

5月のまほろんイベント

5月3日(土)～6日(火)は、「ゴールデンウィークまほろんまつり」を開催します。

火おこしや弓矢のほか、楽しい体験メニューをご用意しています。

詳細は、まほろんホームページ等をご覧ください。



ご利用案内

- 開館時間** 9:30～17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日** 月曜日 (月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、ただしGW・夏休み期間中は開館)、国民の祝日の翌日 (土曜日・日曜日にあたる場合は開館)、年末年始 (12月28日～1月4日)
- 入館料** 無料 (体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。)
- その他** 団体 (20名以上) でご利用の場合は、事前にご予約ください。

今年度の行事予定

1 まほろんイベント

期 日	イベント名	イ ベ ント 内 容	募集締切	募集人数	対 象	参加費等
5月3～6日 (土～火)	ゴールデンウィークまほろんまつり	火おこしや弓矢などの楽しい体験がもりだくさん。	—	—	どなたでも	無料
7月27日(日)	まほろん夏まつり	古代3種競技の「まほろんカップ」を開催。	—	—		
9月13～15日 (土～月)	まほろんを描こう	まほろんの敷地内で絵を描きます。	—	—		
11月3日(月)	まほろん秋まつり	秋にちなんだ楽しい体験メニューがいっぱい。	—	—		
12月7日(日)	まほろんもちつき大会	堅杵と横杵などで餅をつきます。	—	—		
1月18日(日)	まほろん双六大会	昔の遊び「双六」のトーナメント戦を行います。	1月12日(月)	20名	小学生以上	無料
2月15日(日)	まほろん冬まつり	色々なコーナーで体験学習が行えます。	—	—	どなたでも	

(小学3年生以下は保護者同伴)

2 実技講座

期 日	体 験 メ ニ ュ ー	体 験 内 容	募集締切	募集人数	対 象	材料費
5月11日(日)	土器づくり初級編①	土器づくりに挑戦します。	5月6日(火)	16名	小学生以上	1kg120円
5月25日(日)	大堀相馬焼をつくろう①	発掘された大堀相馬焼を参考に器をつくります。	5月18日(日)	16名	小学生以上	500円
6月15日(日)	大堀相馬焼をつくろう②	5月につくった器に絵付けをします。	—	—	—	—
6月22日(日)	土器づくり初級編②	5月につくった土器を野焼きします。	—	—	—	—
6月28日(土)	カラムシから布をつくろう①	カラムシを刈り取り、繊維を取り出します。	6月22日(日)	16名	中学生以上	500円
7月12日(土)	カラムシから布をつくろう②	カラムシの繊維から糸をつむぎだします。	—	—	—	—
8月2日(土)	縄文ポシェットをつくろう	クラフトテープで縄文ポシェットを復元します。	7月27日(日)	12名	小学生以上	400円
8月9日(土)	古代の染色にちょうせん	タデアイを用いた絹布の染色をします。	8月3日(日)	午前・午後各16名	小学生以上	1,200円
8月30日(土)	カラムシから布をつくろう③	カラムシの糸でアンギン編みの布をつくります。	—	—	—	—
9月14日(日)	鹿の角で装飾品をつくろう	鹿の角を削って装飾品をつくります。	9月7日(日)	12名	小学生以上	500円
10月5日(日)	勾玉づくり上級編	複雑な形の勾玉づくりに挑戦します。	9月28日(日)	12名	小学生以上	410円
10月19日(日)	埴輪づくり①	埴輪づくりに挑戦します。	10月13日(月)	16名	小学生以上	1kg120円
11月9日(日)	ひょうたんから容器をつくろう	ひょうたんで飾り物の容器をつくります。	11月3日(月)	20名	小学生以上	100円
11月23日(日)	埴輪づくり②	10月につくった埴輪を野焼きします。	—	—	—	—
11月30日(日)	古代の印章をつくろう	石に彫刻して印章をつくります。	11月24日(月)	16名	小学生以上	400円
12月21日(日)	家族で門松をつくろう	お正月飾りの門松をつくります。	12月14日(日)	家族10組	小学生以上	600円
1月25日(日)	古代の鏡をつくろう	型に金属を流して鏡をつくります。	1月18日(日)	12名	小学生以上	600円
1月31日(土)	縄文土器づくり上級編①	文様や形の複雑な縄文土器をつくります(形づくり)。	1月25日(日)	10名	中学生以上	1kg120円
2月1日(日)	縄文土器づくり上級編②	(文様づけ)。	—	—	—	—
2月22日(日)	ガラスと組紐でアクセサリをつくろう	ガラス玉と組紐でアクセサリをつくります。	2月15日(日)	12名	小学生以上	500円
3月7日(土)	縄文土器づくり上級編③	2月につくった縄文土器を野焼きします。	—	—	—	—

(小学3年生以下は保護者同伴)

3 まほろん森の塾(本年度の塾生を募集しております)

期 日	内 容	募集人数	対 象	参加費
5月17日(土)～ 12月13日(土)	春～秋を通して、原始・古代の衣・食・住をたのしく体験します。(6回開催)	15名	小学4年生～ 中学3年生	1,000円

4 まほろん文化財講演会(申込不要) 会場:まほろん講堂

期 日	講 演 題	募集人数	対 象	入場料
6月14日(土)	第1回「近世大堀相馬焼の編年と流通」	60名 (先着順)	どなたでも	無料
7月19日(土)	第2回「特別史跡三内丸山遺跡と世界遺産」			
10月18日(土)	第3回「考古学の魅力ーエジプト考古学の最前線ー」			
11月8日(土)	第4回「被災文化財の救出と保全」			
12月13日(土)	第5回「古墳時代の白河」			
2月7日(土)	第6回「放射能汚染と東北の自然」			

5 館長講演会(申込不要) 会場:まほろん講堂

期 日	内 容	募集人数	対 象	入場料
5月17日(土)	はじめての考古学(考古学者は遺跡を読む)ー第1回「考古学ってなんだろう」	60名 (先着順)	どなたでも	無料
7月20日(日)	はじめての考古学(考古学者は遺跡を読む)ー第2回「遺跡について」			
9月20日(土)	はじめての考古学(考古学者は遺跡を読む)ー第3回「遺物について」			
11月15日(土)	はじめての考古学(考古学者は遺跡を読む)ー第4回「発掘ということ」			
1月17日(土)	はじめての考古学(考古学者は遺跡を読む)ー第5回「遺物の行き先」			

※事前申し込みの必要な実技講座等は、電話・ファックス・ホームページ、館内備え付けの「申し込み書」にてお申し込み下さい。